

2024年4月1日

各位

J X石油開発株式会社

入社式における社長メッセージについて

当社入社式における社長：中原 俊也のメッセージ（要旨）を下記のとおりお知らせいたします。
なお、2024年度の新入社員数は9名です。

記

J X石油開発へ入社する皆さんを心から歓迎し、お祝いを申し上げます。
皆さんを当社およびE N E O Sグループの一員として迎えられたことをたいへん嬉しく思います。

当社は、日本最大のエネルギー・資源・素材コングロマリットであるE N E O Sグループの主要な事業会社として、持続可能な社会の形成に貢献していくために重大な使命を担っています。当社およびE N E O Sグループの未来を支える若い力である皆さんに、本日は、4点お話しします。

1. E N E O Sグループ理念について

E N E O Sグループの使命は、エネルギー・資源・素材における創造と革新を通じて社会の発展と活力ある未来づくりに貢献することであり、その実現のために大切にしている価値観が「高い倫理観」、「安全・環境・健康」、「お客様本位」、「挑戦」、「向上心」です。このうちどれひとつ欠けても健全な事業運営は成立しません。

そして、いまこの瞬間も私たちの日常に必要なエネルギー・素材を提供することで「今日のあたり前」を支え、脱炭素・循環型社会という「明日のあたり前」の実現に向け、これからも先頭に立って挑戦を続けるという決意を表明しています。

皆さんも、E N E O Sグループの一員として、そして、E N E O Sグループの未来を担う存在として、これら理念、価値観、決意を心に刻んで行動してください。

2. J X石油開発の理念体系について

当社は、昨年5月にJ X石油開発の理念体系を策定しました。それまでは、エネルギーの安定供給に向けた探求と挑戦を“Explore the EARTH and Create Value”という標語で社内共有していましたが、これを企業理念として位置づけることとしました。「地球を舞台に無限の可能性を探求し、社会にとっての価値を創造する」—これが当社の企業理念であり、みなさん一人ひとりの拠り所となるものです。



また、「ありたい姿」も同時に策定しました。つまり、「地球の恵みを未来の力に 地下技術と革新的創造力でサステナブルな社会をリードするキープレイヤー」になることを目指し、来たる 2050 年カーボンニュートラル時代を牽引します。

そして、それらを実現するための全社戦略として、「二軸経営」を掲げました。

3. 当社の未来 = 「二軸経営」について

2021 年 11 月の COP26 以降、世界は脱炭素に向けて大きく動きだしましたが、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエル・ハマス戦争を受け、エネルギーを取り巻く環境は大きく変わりました。

エネルギーの安全保障（Security）、安価なエネルギーの確保（Affordability）、持続可能な地球環境の実現（Sustainability）という相反する課題（Energy Trilemma）にどう向き合うかが、私たちエネルギー業界に求められているところではあります。

このような環境下、当社は、2021 年から、石油・天然ガス開発事業を引き続き「基盤事業」としつつ、当社の誇る CCS/CCUS <注 1・2> 技術を核とした環境対応型事業を「成長事業」とする「二軸経営」を力強く推進しています。

「基盤事業」である石油・天然ガス開発事業は、極めて専門性・特殊性の高いビジネスであり、不確実あるいは困難な要素が数多く存在しますが、世界を舞台にした、ロマン溢れる、挑み甲斐のある仕事でもあります。

他方、「成長事業」と位置付ける環境対応型事業は、実は、当社が、脱炭素が叫ばれる前から取り組んできた事業でもあります。アブダビにおけるゼロ・フレアの導入、石油・天然ガス業界では世界初となるベトナムにおける CDM <注 3> 取得、世界最大規模である米国 Petra Nova CCUS プロジェクト <注 4> などです。

昨年は、カーボンニュートラルの実現に向けて E N E O S グループの CCS/CCUS バリューチェーンを一層強化すべく、日本海洋掘削を当社グループに迎え入れました。加えて、2050 年に向けたロードマップを策定し、2030 年までの CCS 実装に向けて具体的に動き出した記念すべき年となりました。

社会へ安全・安定的にエネルギーを供給すると同時に、環境負荷低減も実現するため、当社は多種多様な挑戦に果敢に臨んでいきます。皆さんにも、チャレンジングで刺激的な仕事が待っています。ともに挑戦していきましょう。

4. 皆さんに期待すること

当社は、各分野のプロフェッショナルが集まって、チームとして、グローバルな事業に挑んでいる会社です。そして、当社には、様々なバックボーンを持つキャリア入社社員や各国のナショナルスタッフが勤務しています。

これからの時代は、一人ひとりの個性が尊重され、活かされる組織であること、また、一人ひとりがやりがいを持って生き生きと活躍する組織であることが、ますます重要になると考えています。そのため、当社は、人権尊重/ダイバーシティ・インクルージョンを強化することはもちろんのこと、従業員エンゲージメントの向上に向けた各種施策を実施していきます。

皆さんには、これから「自ら考え、主体的に行動する」ことが求められます。その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないか、自分で考え、判断し、主体的に行動する力を身につけてください。そして、それぞれの個性を存分に発揮しながら、プロフェッショナルへの道を邁進してください。今後、当社を取り巻く環境は、これまで以上のスピードで変化していくことが予想されます。環境の変化にしなやかに対応していくためには、前例や慣習に必要以上にとらわれることなく、フレッシュな発想で取り組むことが肝要と考えます。若い皆さんからの忌憚のない意見、画期的な提案を期待しています。

以 上



【参考】

- J X 石油開発の理念体系

https://www.nex.jx-group.co.jp/corporate/philosophy_noex.html

- ダイバーシティ&インクルージョン推進に関するトップメッセージ

[人権尊重／ダイバーシティ・インクルージョン | CSR | J X 石油開発 \(jx-group.co.jp\)](https://www.nex.jx-group.co.jp/corporate/philosophy_noex.html)

<注 1> CCS: Carbon dioxide Capture and Storage の略。排出される二酸化炭素を回収し、地下に圧入・貯留する技術。

<注 2> CCUS: Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage の略。排出される二酸化炭素を回収し、新たな商品やエネルギー生成のために利用する技術。

<注 3> CDM: Clean Development Mechanism の略。クリーン開発メカニズム。

<注 4> Petra Nova CCUS Project: 米国ヒューストン近郊において、火力発電所の燃焼排ガスから年間約 150 万トンの二酸化炭素を分離・回収し、油田への圧入により原油の増産を図る世界でも有数の大規模 CCUS プロジェクト。2022 年 9 月に子会社化。



お祝いを述べる中原社長